

誰も知らなかった真実の物語?! 新・白山=“ハム山”誕生物語

自己のワクワク“アセンション日記”より

世界初の **アセンション・アニメ?!**

『ハム(愛)パンデミック?! 中今のハム山2025』

《新・白山誕生物語》

【7】

地上セルフは2024年頃から、“皇道(皇学)”なる言葉を使うようになりましたが、それは自身にとっての大切な言霊であり(自分語)、一度整理しておきたいと思います。

“皇道”とは、“皇”=根源への“道”であり、その学びが“皇学”で、イコール、“根源へのアセンション”そのもの！ その学びと実践です。^^

一般的にいわれる「皇学」について調べてみると、

皇大御学(すめらおほみまなび)の略で、有職故実、国語学、国史学、国文学、地政学と幅広く、国学と同一視されることがあるが、日本独自の歴史・文化・伝統を日本の古典(皇典)から究明する専門性の高い学問であり、純粹に日本独自の学問といえる。(ウィキペディア)

とあり、地上セルフにとっては憧れの学問でもありますが、

中今の自身は、世界の中の日本というより、宇宙の中の日本を知りたい！

そのような感じでしょうか。^^

日本は“天皇”(天照太陽神の霊統)という御柱を持つ、特殊な(独自の)国であり、

その文化・伝統を大切にするという思いは同じです。

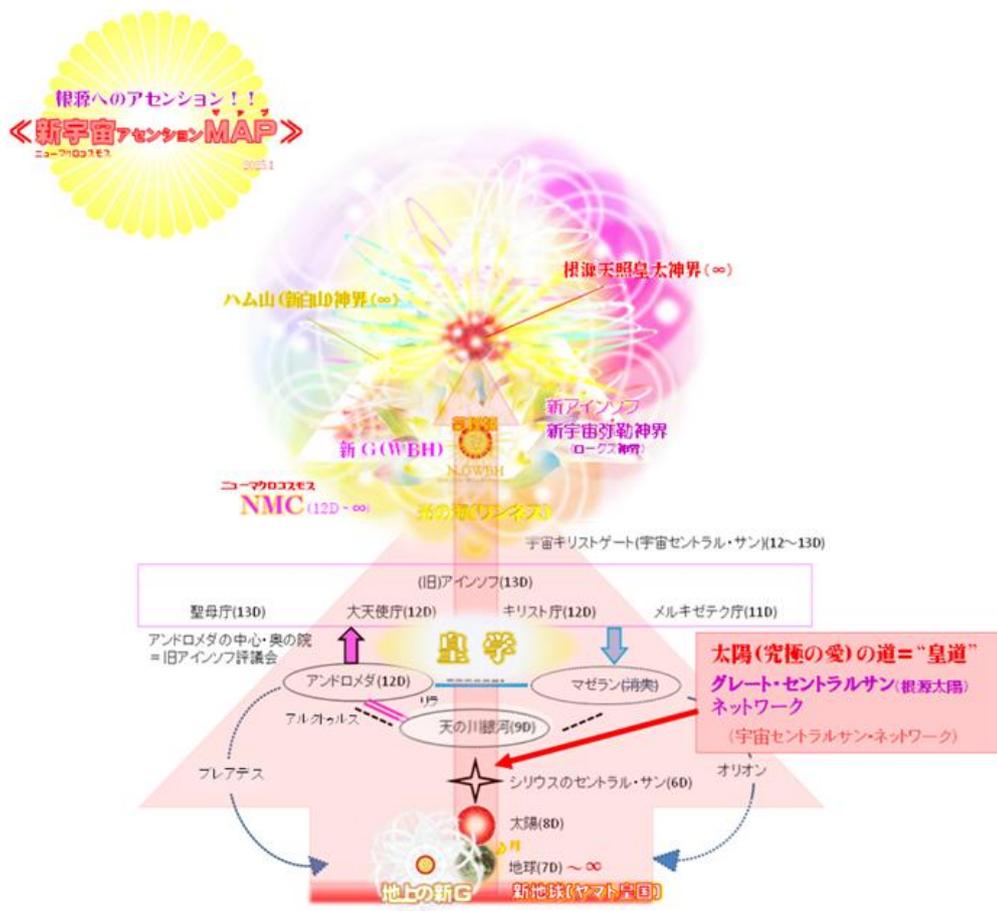
“帝王学”も素晴らしいと思いますが、時代が変わってきているのではないのでしょうか？

誰かが先頭に立って、みんなを引っ張って行く時代から、

一人一人が、あるべき場所(魂の願い)にしっかりと立つ事で(自分軸の確立)、バラバラだったパズルのピースがピタリと治まり、大調和が生まれていく！(神の御経綸)

それが、これからの世界なのではと。^^

皇道=根源太陽へと帰っていく“魂”(=人の中心太陽)の道であり、
 それは、NMC の大黒柱、“グレート・セントラルサン・ネットワーク”でもあります。
 アセンションを学びはじめてから、ほんやりと感じていた、様々なものが、
 この柱(宇宙スシュムナー?)を中心として、形となって地上セルフにも見えてきた感じ…、
 それを描いたものが、根源へのアセンション MAP です！^^



私達一人一人に壮大な宇宙史があり、誰もがオンリーワンです。^^
 こちらは、『天の岩開き』に掲載されていた旧宇宙 MAP を、中今の地上セルフの感覚で
 追記、修正したもので、一番の下の(3D)地球から、
 頂上&中心である“根源天照神界”を目指す！という、宇宙にたった一つの、
 自分だけの航海図?!とも言えます。^^
 大雑把な地上セルフ用(笑)の、見た目超シンプル版ですが、この MAP の中には

莫大な時空(宇宙領域)が潜んでいて、それら全てを統合していくという、
とても高度なものでもあるのだと思います。

その最大のサポートとなる存在が、新 G (WBH) であり、皇学なのでは？と。^^

この MAP を見て思う事。。

故郷の学校の、敬愛してやまない恩師、それが自身にとっての新 G であり、

その大きな見守りの中で、地上セルフは、地上セルフにしか出来ない事

=NMC(新しい宇宙)と地球(&旧宇宙の全て)をつなぐ為に、ここまで生きてきた！

最大の感謝と、そしてひとまず、自分にお疲れさまを。^^

すべてののはじまりは、日(太陽)の本“日本”！

2024年5月、「記紀」・古史古伝の旅にでかけました！^^

金澤神社でいつも気になっていた“白蛇竜神”に、改めてフォーカスしてみると、

古代中国神話における三皇とされる、“伏羲”と“女媧”が浮かび上がり、

日本の古史古伝の一つ、『富士古文書(宮下文書)』へとつながっていきました。

『富士古文書』は、『記紀』には出てこない、“富士王朝”なるものが存在したとするもので、

自身としては、“白山王朝”同様、存在したに違いないと感じています。^^

すべての歴史書は、ある側面からみたもので、全体が見えているわけではないのだと思います。

世界中の神話の中に見る、例えば、ノアの箱舟やアダムとイヴの物語等、よく似たエピソードは、

まだ大地を分ける、国境という境界線が引かれる前に起こった、同一の出来事であり、

後世になって、それぞれの国が、独自の神話として語り伝えてきたものであるような気がして、

その原点に立ち返る事で、ワンネスの意識が生まれていくのではないのでしょうか？^^

富士古文書に見る伏羲は中国の神であり、その子孫が国常立尊で、そこから、

伊邪那岐・伊邪那美、そして、天照大神、神武天皇へと続いていて、

日本神話のはじまりが中国にあったのか？と、ものすごくビックリ?!したのですが…

その前があり、伏羲は日本の蓬莱山(富士山)から中国大陸へ渡ったとの事、納得でした！^^

どこを始まりとするかで、全然違った世界が見えてくるのではないのでしょうか？

やはり、今必要なことは、あらゆる全ての原点＝根源(神)に意識を向けることであり、それによってはじめて、皆がたった一つ！となる可能性が生まれるのだと思います。

自身はこれまでの人生において、常に“神”なるものに意識を向け、時に反感を覚え、様々な疑念や迷いを抱きながらも、探求し続けてきました。

そして今、一なる至高の根源とは、“根源天照皇太神界”であり、それは、宇宙のあらゆる高次から、NMCの核神として選ばれた！という事に

心からの賛同と、絶対的確信を持っています。^^

もし、百歩譲って、そうでなかったとしても、地上セルフは、
根源の究極の愛の源である“根源太陽母神”を核とする宇宙以外には
生きていたくありません！

日の本は、太陽の本であり、根源天照皇太神とつながる、特別な役割を持つ国です。

日本が世界のはじまりであり、ここからまた、新しい世界が広がっていきます！

それは人だけでなく、神々も同じであり、神々の子孫である私達が同じ方向を向くことで、

神々もまた、一なる根源神へと帰っていく事が出来るのではないのでしょうか？

人は神々、大自然からみれば小さな存在ですが、人こそが、それらあらゆる全てを、

一なる愛の源へと導いていく希望の光！私はそう信じます！^^

日本国のはじまりは、紀元前660年2月11日、初代“神武天皇”即位からと言われますが、

『古事記』の元となったとされる『帝皇日嗣』(帝紀)には、

そのはじまりを、零代“皇祖元主元無極主大御神^{ミオヤモトスミクライヌシ}”としています。

無の神(無という状態がある、空)とされ、年代不詳であり、

“根源”、“ゼロポイント”等と、言い換えることができるのではないのでしょうか？

そこから、別天津神であり、造化三神とされる

帝皇日嗣 初代“天之御中主大神”

(宇宙神。宇宙の中心であり、宇宙そのもの。宇宙の運行を司る神。)

帝皇日嗣 二代“高御産巢日神”(宇宙の生成を司る神。)

帝皇日嗣 三代“神御産巢日神”(神々を生む神。)へと続いていき、

この時点が現代科学でいう、137億年前のビッグバンの頃であるとされます。

その後、四代“宇摩志阿斯訶備比古遲神”、五代“天之常立神”と続き、これらの神々は

「すぐに身体を隠した——」とあり、自身には、理論物理学における

余剰次元(異次元)がイメージされます。^^

5次元以上(11次元までが想定済)の時空が、現在3(~4)次元とされる地上物質界に、

小さく畳み込まれるように存在していて、私達には見る事ができないとされます。

そしていよいよ、帝皇日嗣六代として、この地球そのものである“国常立大神”が誕生しますが、

それまでの間に、古事記には記されていないマル秘?の神々が存在しています。^^

大宇宙の中の、一つの小宇宙、銀河、太陽系の誕生、

その中に生まれ、育まれた、小さな“意識体”が、夜空にみる星々であり、

また地球と、そこに生かされている私達人類でもあることが、理解されてきました。^^

“神話”とは、宇宙の歴史書であり、科学書でもあり、

神々の名前は、宇宙の生成・進化の過程そのものを表していることがわかり、

その末端に私達“人”が存在していて、私達もまた、神であり、宇宙の一部に違いないのです。^^

神武天皇以降の天皇を“人皇”、それ以前(神代と呼ばれる時代)の天皇を“神皇”と呼び

皇=根源なので、人皇=根源の人の時代、神皇=根源の神の時代と分けて呼んでいるだけで、

はじめは“無(空)の神”、“根源”と言えるのではないのでしょうか。^^

天之御中主大神よりも更に古い根源とは、どのような所なのか？

以前の地上セルフには想像もつきませんでした。中今、自身が進むべき道として、

“菊理姫”が見え、“根源天照皇太神”が見えて来た?!という事で

これまでは、ただの夢物語としか思えなかった神話が、神話でなくなっている…？

アセンションは、意識の進化・上昇と訳されますが、進化はまさに、“神化”でもありました。

“進化”とは、ピラミッド型(次元界層を想定した)宇宙における、天界的、霊的表現であり、大天使やアセンディッド・マスター等と呼ばれる神の使者(霊)によってサポートされています。

一方、“神化”とは、球体型(全体と中心があるだけ)宇宙における、神界的、魂的表現で、“魂”は神の分御魂(分身、子供)であり人の本質そのもの、“霊”は神と人をつなぐものです。

根源から∞の次元階段を、神皇、人皇、となって降りてきて↓(=ディセンション)、

そして中今、人皇から“皇人”へと反転し、再び根源へと上っていく

=“根源へのアセンション”です！ ↑ ^^v

2024年9月9日、菊理姫からの宿題?! スピリチュアル=真の科学

9月9日はくくりの日、なんとなく菊理姫に呼ばれている? 気がして、白山さんへ出かけると

神門にて、不思議な光景を目にしました?



異次元の蝶?が舞う?! 白山さん(動画)
ブログ“白山から∞の愛と光を”
2024. 9. 9 菊理姫からの宿題?より

<https://ameblo.jp/mugendai-ai-hikari/entry-12867093834.html>

上記が、ブログにアップした動画?で

10月10日に発進したコンテンツが、こちらです。^^

9月9日菊理姫からの宿題? 真の“科学”=“スピリチュアル”(内なる宇宙)?!

<http://ascension-hokuriku.net/7-2023n-gwbh/sume-g/2024.10.10.pdf>

自身は理系がまるで苦手な、物理とか科学には拒否反応(笑)があったのですが、

今回の不思議映像は、銀河宇宙人に向けての、菊理姫からの宿題では?と感じた事から、

現代物理学(ちょっとだけですが…)に、挑戦してみました。^^

感想としては、すごく楽しかった！で、科学(物理)に対するイメージが一変しました。

そこは、愛と夢と希望、ワクワクがたくさん詰まった、感動溢れる世界だったのだと！^^

現実にかかる不思議な出来事は、まだ現代科学では証明出来ていないだけで、

高次では普通の現象=科学であることが、明確に理解されてきました。

そしてこれこそが、私達が目指す新しい世界であり、“宇宙”と呼ばれるものなのだ。^^

地上セルフは特殊能力を持たない普通の人ですが、振り返ってみると

普通とは思えない不思議体験もあり、ただなかったことにしていただけなのかも？と。

自身の娘は赤ちゃんの頃、宙を見つめて、何かを掴むように両手を伸ばしながら、

楽しそうに笑っていました。^^ほのぼの

私達には見えていない誰か(精霊?)と、遊んでいたのではないのでしょうか？

夜中にふと見ると、天狗山(手取川べり、岩根宮元地)の上を、

巨大な赤い火の玉?が、す〜と横切り、母と二人で顔を見合わせた事がありました。

調べてみると“天狗火”とあり、こちらは妖怪でしょうか？(笑)

コンテンツにも記しましたが、自身の学生時代にブームとなった「こっくりさん」は

私達の持つ意識(集合無意識)の働きであり、特定のこっくりさんなどいなかったのでは？^^

また、全く意味不明だった古文が、ある瞬間に、全部同時にわかってしまったのは、

アカシックレコードと呼ばれるものにつながったからでは？等、現代なら、

もっと科学的に説明できる現象も多いのではないのでしょうか？^^

過去にある本を読んでいると、本の中から弾丸?が飛び出して来て、胸に命中した?!

or 光の玉が飛び出してきて、自己の魂に飛び込んだ?!

と感じ、ビックリしたことがありました。(内容は高位の神霊について語ったものでした。)

作者の意図、思念=強烈な意識波動(言霊)であり、魂のパワーでもあり、

自身のそれとの共鳴だったのでは？と、今は理解します。^^

結局のところ、文系人間も理系人間も、アプローチの仕方が違うだけで、

目的地は同じ、愛と光、ワクワクの高次元宇宙であり、スピリチュアル=科学なのだと思います。

現代科学においても、すでに11次元までの異次元界が肯定されていて、

まさに、12次元が NMC (新宇宙) の入り口であり、もうそこまで来ている？！

という事ではないでしょうか！^^

人間の持つ独創性は、量子コンピューターを超える！とも感じました。

将来、人が機械に使われる時代が来る、とも言われますが

AI や IT は人が生み出し、活用していくものなので、肝心なのは人の霊性であり、

愛が基盤となった社会の在り方なのだと思います。^^

アインシュタインが最愛の娘に、「死後20年間は公開しないで欲しい。」との

約束をして、託したとされる手紙にあるように、

とうとう現代科学が、“愛”(の真の力)を発見する時が来た！のではないのでしょうか！！

「現段階では、科学がその正式な説明を発見していない、ある極めて強力な力がある。

それは他のすべてを含み、かつ支配する力であり、宇宙で作用しているどんな現象の背後にも

存在し、しかも私たちによってまだ特定されていない。この宇宙的な力は「愛」だ。

愛は展開し、開示する。愛のために私たちは生き、また死ぬ。愛は神であり、神は愛だ。

この力はあらゆるものを説明し、生命に意味を与える。

これこそが、私たちがあまりにも長く無視してきた変数だ。

私たちが裏切る結果に終わった、宇宙の他の諸力の利用と制御に人類が失敗した今、

私たちが他の種類のエネルギーで、自分たちを養うのは急を要する。

もし私たちが自分たちの種の存続を望むなら、もし私たちが生命の意味を発見するつもりなら、

もし私たちがこの世界と、そこに居住するすべての知覚存在を救いたいのなら、

愛こそが唯一のその答えだ。

恐らく私たちにはまだ、この惑星を荒廃させる憎しみと、身勝手さと貪欲を完全に破壊できる

強力な装置、愛の爆弾を作る準備はできていない。

しかし、それぞれの個人は自分の中に小さな、しかし強力な愛の発電機を持っており、

そのエネルギーは解放されるのを待っている。

自身がこの手紙に導かれたのは、コンテンツ作成中に、かの有名な方程式、

“ $E=mc^2$ ”について考えていた時でした。

科学には全く関心がなかったものの、なんとなくこのシンプルな方程式が気になっていて、

過去に調べてみた事があったのですが、難しい数式や理論の波に阻まれ撃沈…(笑)

今ようやく、その岸辺が見えてきたのでは？と。^^

愛は消えることのない“光”であり、全てのものを引き寄せる“引力”でもあります。

この手紙を偽物とする意見がありました、それが何だというのでしょうか？

現代科学が目指すもの、それを支持する私達一人一人の中には、真実を求め信じる心

=宇宙最大の力“愛”がある！

それをもってして出来ないことなど何もない！ではないでしょうか。^^

今という激動の時、混乱と絶望の淵に立つ私達に向かって、大きく愛を叫んでいる、

アインシュタインの笑顔が見える気がします！^^

“**菊理姫**”が導いてくれた、現代物理学(科学)の世界——。

「愛は神であり、神は愛だ。」との、アインシュタインの言葉通り、神は愛であり、

宇宙の姿そのものなのだと思います。^^

菊理姫は一体どこにいるの？どのような存在なの？と、問い続けてきましたが、

意識が個という殻を破り、宇宙大に広がっていく(=真の自己へと帰っていく)事によって、

初めて見えてくる秘神だった…

それは、自己の内側にある…、私の中にも、あなたの中にも——。

愛(神)という、宇宙最強最大の、偉大なる力が、

全ての人に寄り添う事のできる、限りなく優しい、あたたかい力でもあることに、

どう感謝すればいいのでしょうか！

私達は、いつどんな時も、その愛に包まれている、愛の子供たちであり、

それを、“**ハム**”とも呼びます。^^

根源太陽(究極の愛)の子供、ハム！ ハムは優しいだけではありません。

究極の純粹の上にある大きな愛、深い叡知、強い意志を持つ、“小宇宙マイクロ・コスモス”！！

私達ハムによって創造されていくのが、新しい地球&NMC(新宇宙)！！

“ハムパンデミック?! 中今のハム山” それは、

一人一人の前に広げられた、真っ白なフオンで出来た画用紙であり、

∞の創造の可能性をもつ、愛と光のキャンパス！！

太陽の子供ハムが描く、愛・ワクワク、喜びと感動の世界が広がっていきます！！

